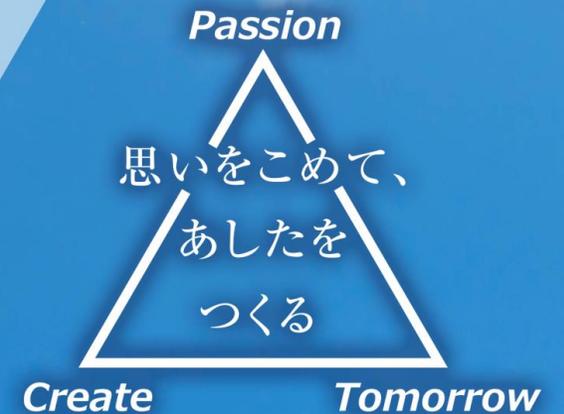


2025年3月期 第2四半期（中間期） 決算説明資料

第101期：（2024年4月1日～2024年9月30日）

2024年10月28日



- 1. 第2四半期（中間期）実績**
- 2. 2024年度通期予想**
- 3. トピックス**

本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、日本および海外の経済情勢や当社の関連する業界動向、為替変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想と大幅に異なる可能性があります。

1-1 中間期 連結業績

販売物量減少により売上高、営業利益ともに減少

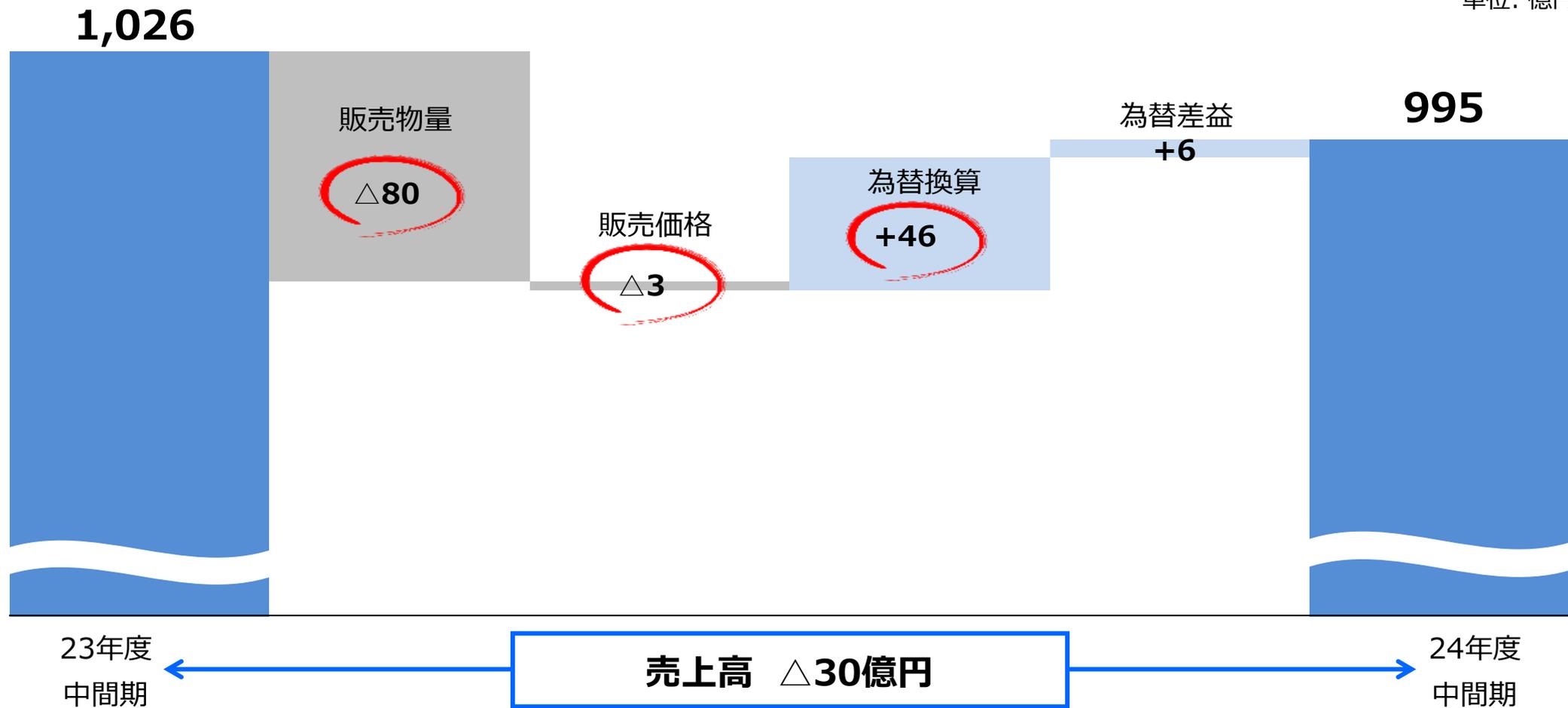
(億円、%)

	2023年度 中間期実績	2024年度		前年同期比		予想比	
		7/25発表 中間期予想	中間期実績	増減	増減率	増減	増減率
売上高	1,026	990	995	△30	△3.0	+5	+0.6
営業利益	74	50	49	△25	△34.6	△0	△2.0
営業利益率	7.3%	5.1%	4.9%	△2.4P	-	△0.2P	-
経常利益	103	70	64	△38	△37.3	△5	△7.4
経常利益率	10.1%	7.1%	6.5%	△3.6P	-	△0.6P	-
親会社株主に帰属する中間純利益	75	55	53	△22	△29.3	△1	△3.1
中間純利益率	7.3%	5.6%	5.4%	△1.9P	-	△0.2P	-
平均為替レート (米ドル)	139.9円	152.3円	153.9円	+14.0円	-	+1.6円	-

1-2 連結売上高 増減要因

販売物量の減少により、売上高は減少

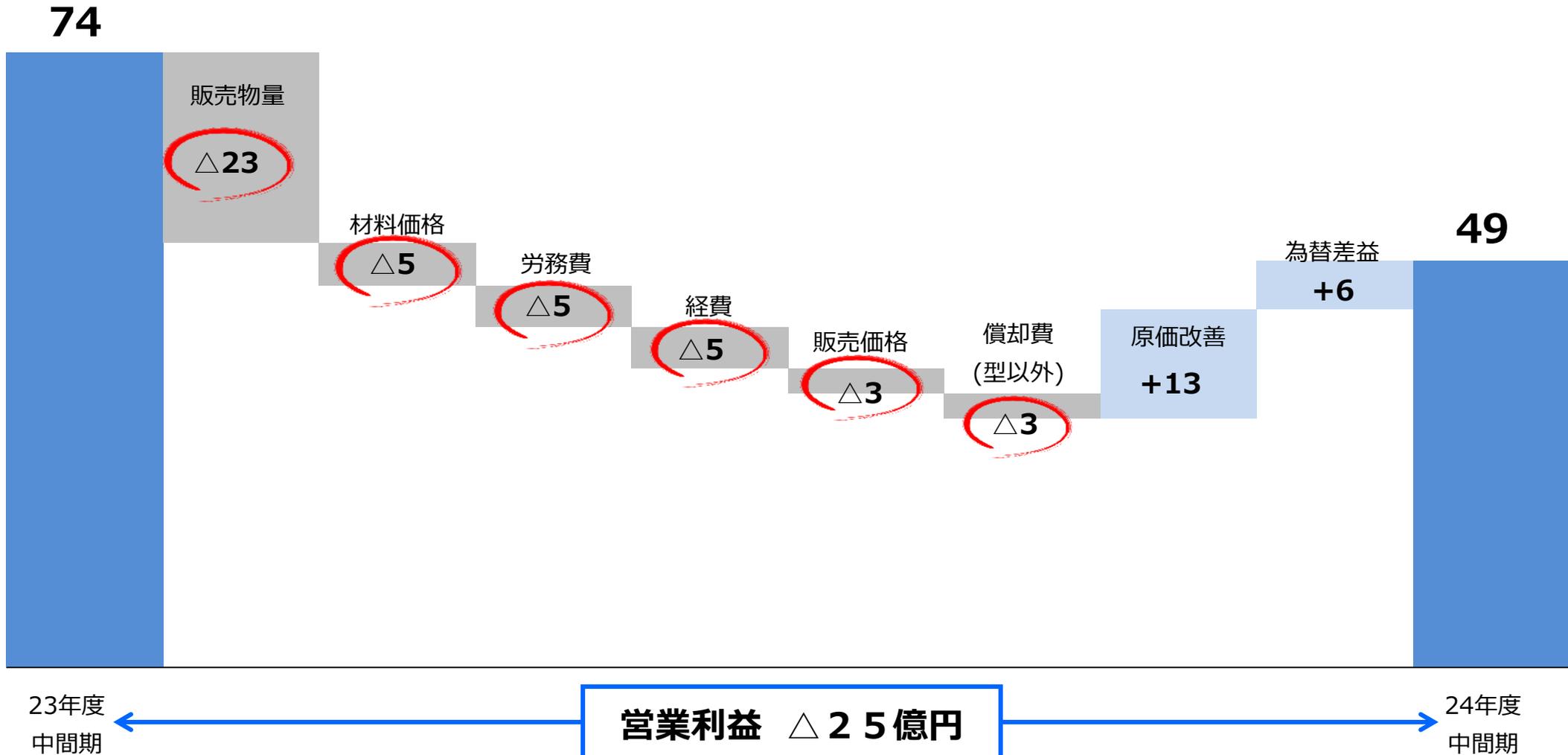
単位: 億円



1-3 連結営業利益 増減要因

販売物量の減少・材料価格高騰・労務費、経費増加により減益

単位: 億円



1-4 連結事業別セグメント

プレス・樹脂は、物量減少により減収、物量減・償却費増加により減益
 バルブは、物量減少も円安により売上高は前年並み、償却費減少により増益

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	23年度 中間期実績	24年度 中間期実績	増減	増減率	23年度 中間期実績	24年度 中間期実績	増減	増減率
プレス・樹脂	741	711	△29	△4.0	55	22	△32	△58.8
営業利益率					7.5%	3.2%	△4.3P	
バルブ	284	283	△0	△0.3	19	26	+7	+36.0
営業利益率					6.9%	9.4%	+2.5P	

1-5 連結地域別セグメント

日本は、物量減少により減収、物量減少・償却費増加により減益

欧米は、円安により増収、償却費減少により増益

アジアは、物量減少により減収減益

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	23年度 中間期実績	24年度 中間期実績	前年同期比		23年度 中間期実績	24年度 中間期実績	前年同期比	
			増減	増減率			増減	増減率
日本	341	333	△8	△2.6	38	20	△17	△46.5
営業利益率					11.2%	6.2%	△5.0P	
欧米	473	488	+15	+3.2	15	16	+1	+6.7
営業利益率					3.2%	3.3%	+0.1P	
アジア	211	173	△37	△17.6	14	9	△4	△30.6
営業利益率					6.7%	5.6%	△1.1P	

1. 第2四半期（中間期）実績
- 2. 2024年度通期予想**
3. トピックス

2-1 2024年度 連結業績予想

中間期実績と外部環境変化を踏まえ、業績予想を修正

(億円、%)

	2023年度	2024年度		前期比		7/25発表比	
	通期 実績	通期予想		通期		通期	
		7/25発表	今回見直し	増減	増減率	増減	増減率
売上高	2,073	2,010	1,970	△103	△5.0%	△40	△2.0%
営業利益	144	115	110	△34	△23.9%	△5	△4.3%
営業利益率	7.0%	5.7%	5.6%	△1.4P	—	△0.1P	—
経常利益	188	145	135	△53	△28.3%	△10	△6.9%
当期純利益 ※1	169	110	105	△64	△38.1%	△5	△4.5%
ROE	11.2%	6.5%	6.4%	△4.8P	—	△0.1P	—
ROA(営業利益ベース)	5.3%	3.9%	3.8%	△1.5P	—	△0.1P	—
一株当り純資産	2,840円	3,025円	2,850円	+10円	0.4%	△175円	△5.8%
平均為替レート(米ドル)	144.2円	151.1円	※2 149.4円	+5.2円	—	△1.7円	—

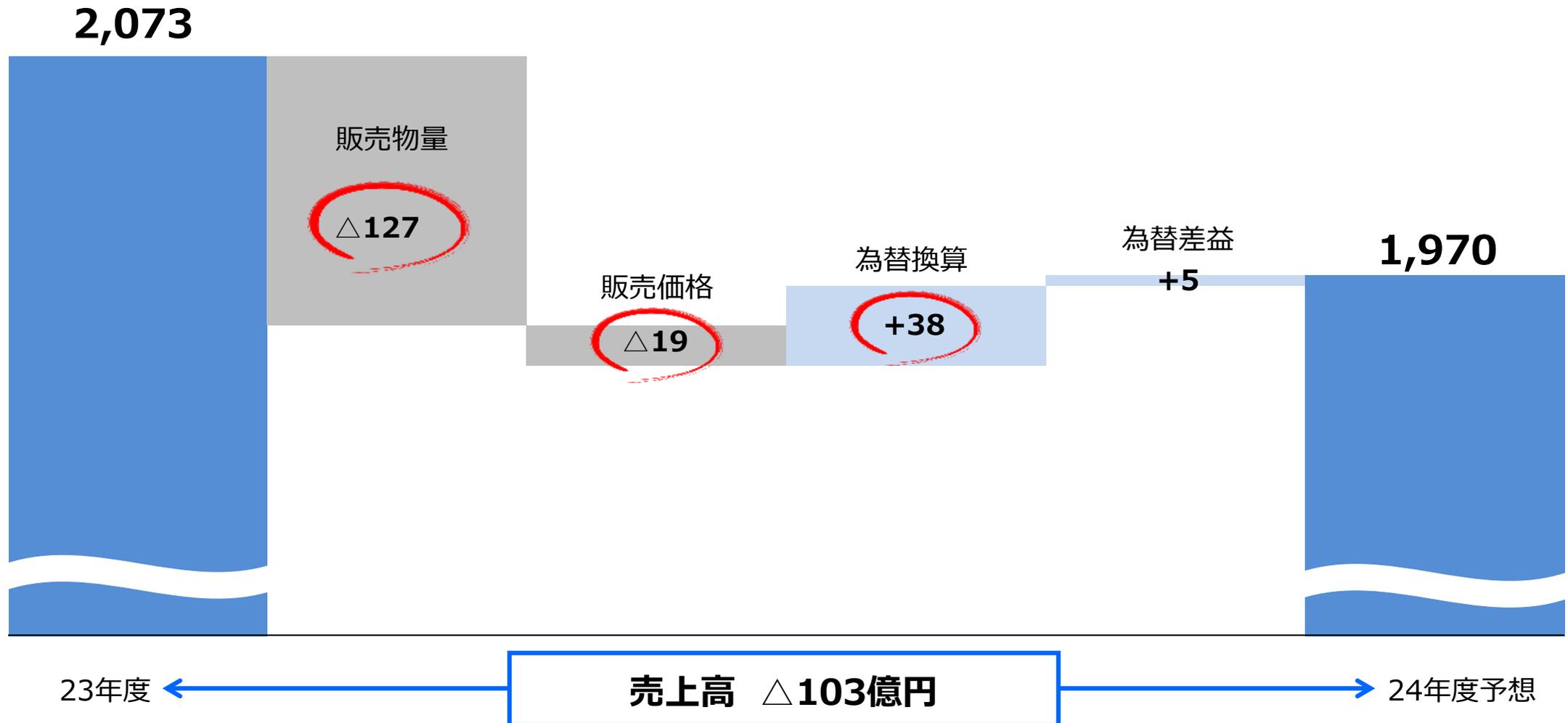
※1 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益です。

※2 第3四半期以降の為替レート前提を、前回7/25発表値 150円/\$から、今回予想値 145円/\$に見直しています。

2-2 通期 連結売上高 増減要因

販売物量の減少により売上高は減少

単位: 億円



2-3 通期 連結営業利益 増減要因

販売物量減少、価格のマイナスとコストアップを原価改善で挽回

単位: 億円



2-4 通期 連結事業別セグメント

プレス・樹脂は、物量減少による減収、物量減少・償却費増加による減益
バルブは、物量減少により減収、償却費減少による増益

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	2023年度 実績	2024年度 予想	前期比		2023年度 実績	2024年度 予想	前期比	
			増減	増減率			増減	増減率
プレス・樹脂	1,499	1,411	△88	△5.9	103	65	△38	△37.5
営業利益率					6.9%	4.6%	△2.3P	
バルブ	571	556	△15	△2.7	41	45	+3	+9.2
営業利益率					7.2%	8.1%	+0.9P	

2-5 通期 連結地域別セグメント

日本は、前年並み売上高、労務費・経費・償却費増加による減益

欧米は、金型含む物量減少による減収、物量減少・労務費増加による減益

アジアは、中国物量減少による減収、物量減少・償却費減少により前期並の利益

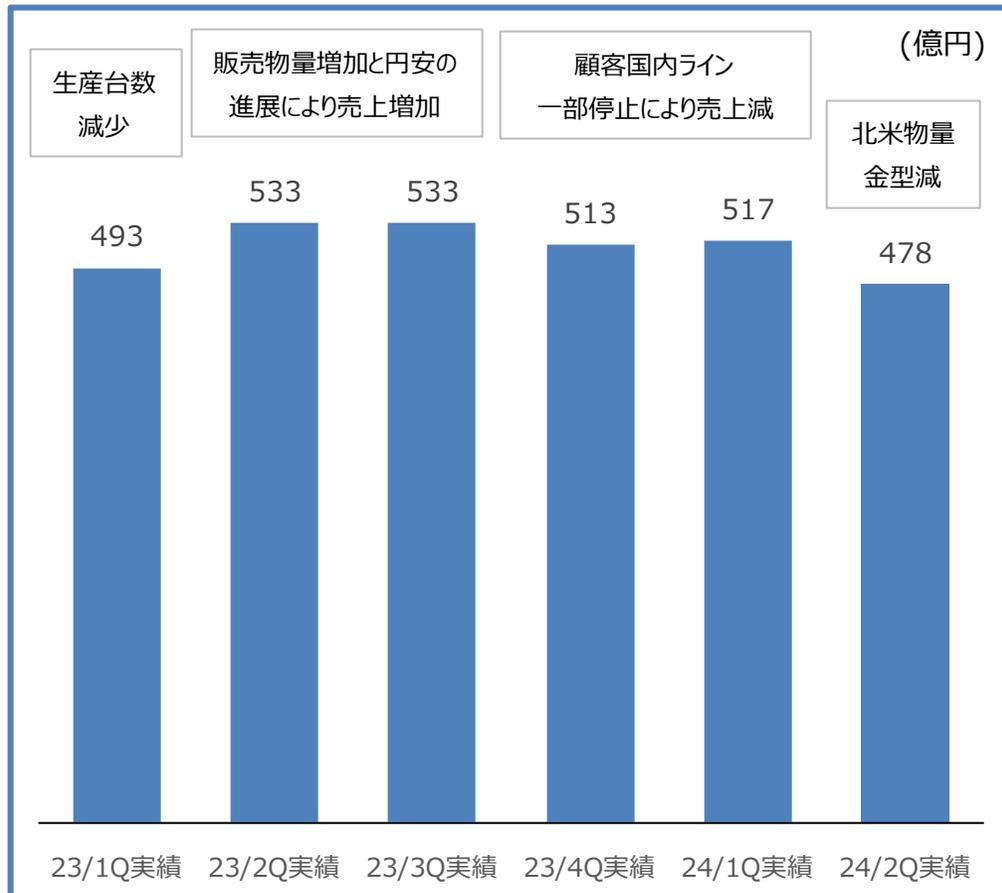
(億円、%)

	売上高				営業利益			
	2023年度 実績	2024年度 予想	前期比		2023年度 実績	2024年度 予想	前期比	
			増減	増減率			増減	増減率
日本	679	670	△9	△1.4	62	42	△20	△32.8
営業利益率					9.2%	6.3%	△2.9P	
欧米	969	932	△37	△3.9	43	36	△7	△16.5
営業利益率					4.4%	3.9%	△0.5P	
アジア	424	368	△56	△13.3	26	25	△1	△7.2
営業利益率					6.4%	6.8%	+0.4P	

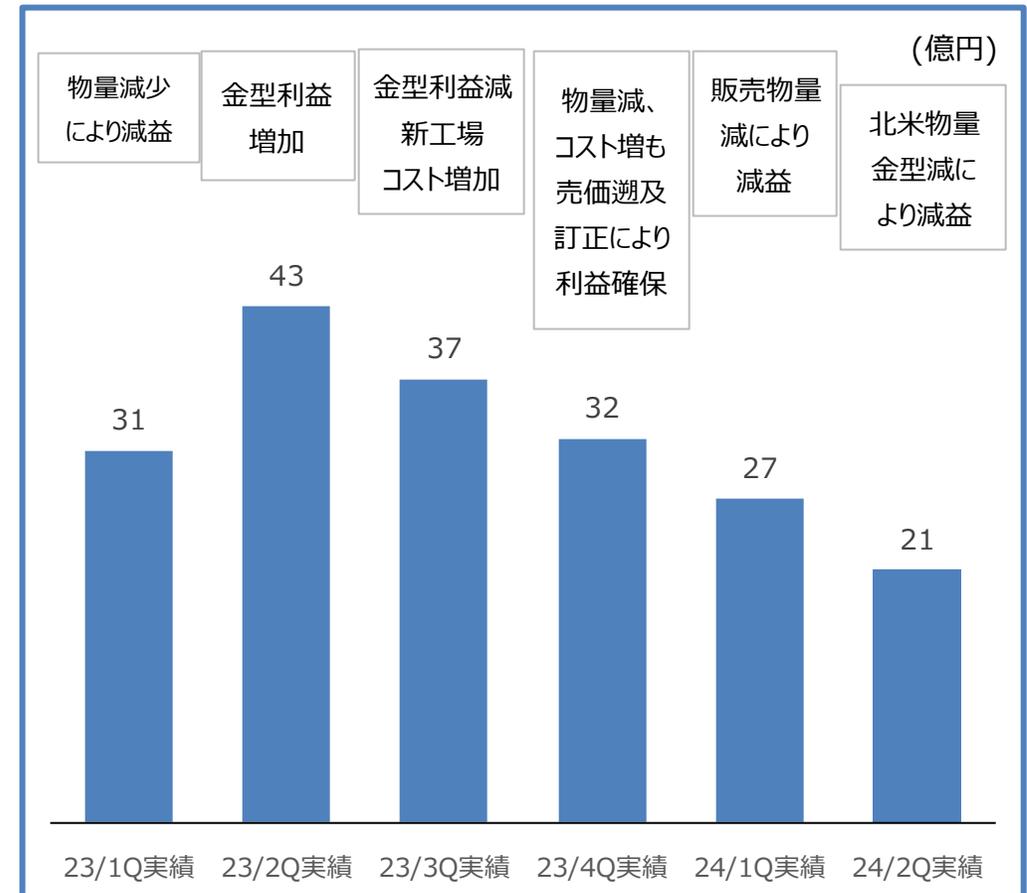
2-6 四半期別 連結業績推移

一部車両の生産停止、金型売上減少等により利益減少

売上高

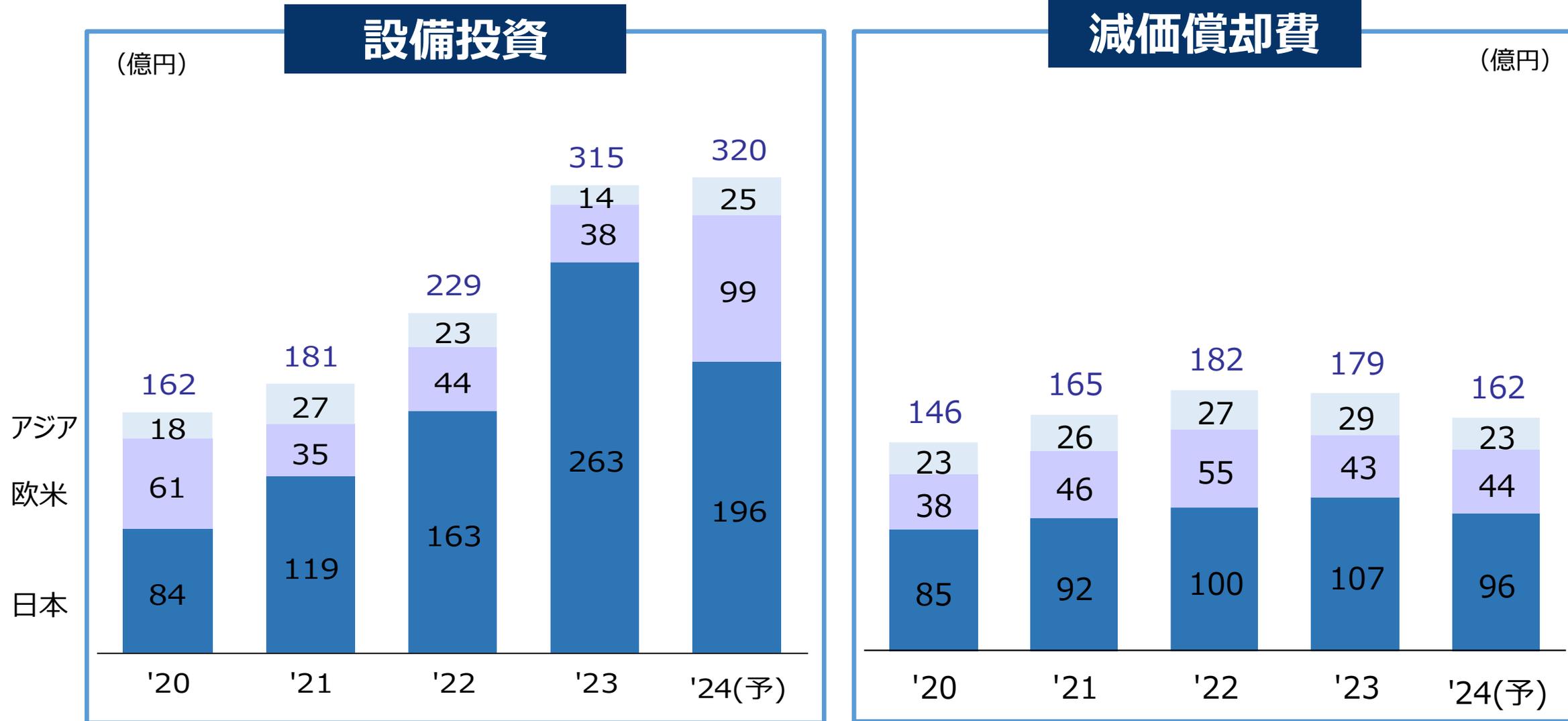


営業利益



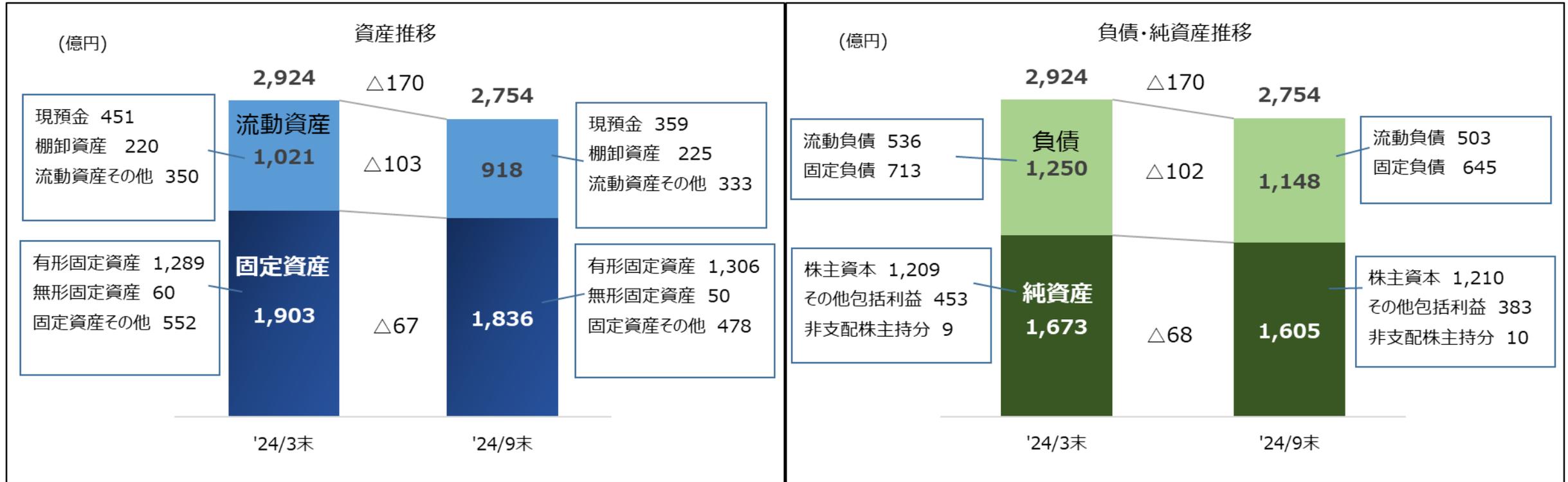
2-7 連結設備投資・減価償却費

バルブ新工場・金型工場・開発センター等、将来の成長のための投資を実施



2-8 連結貸借対照表

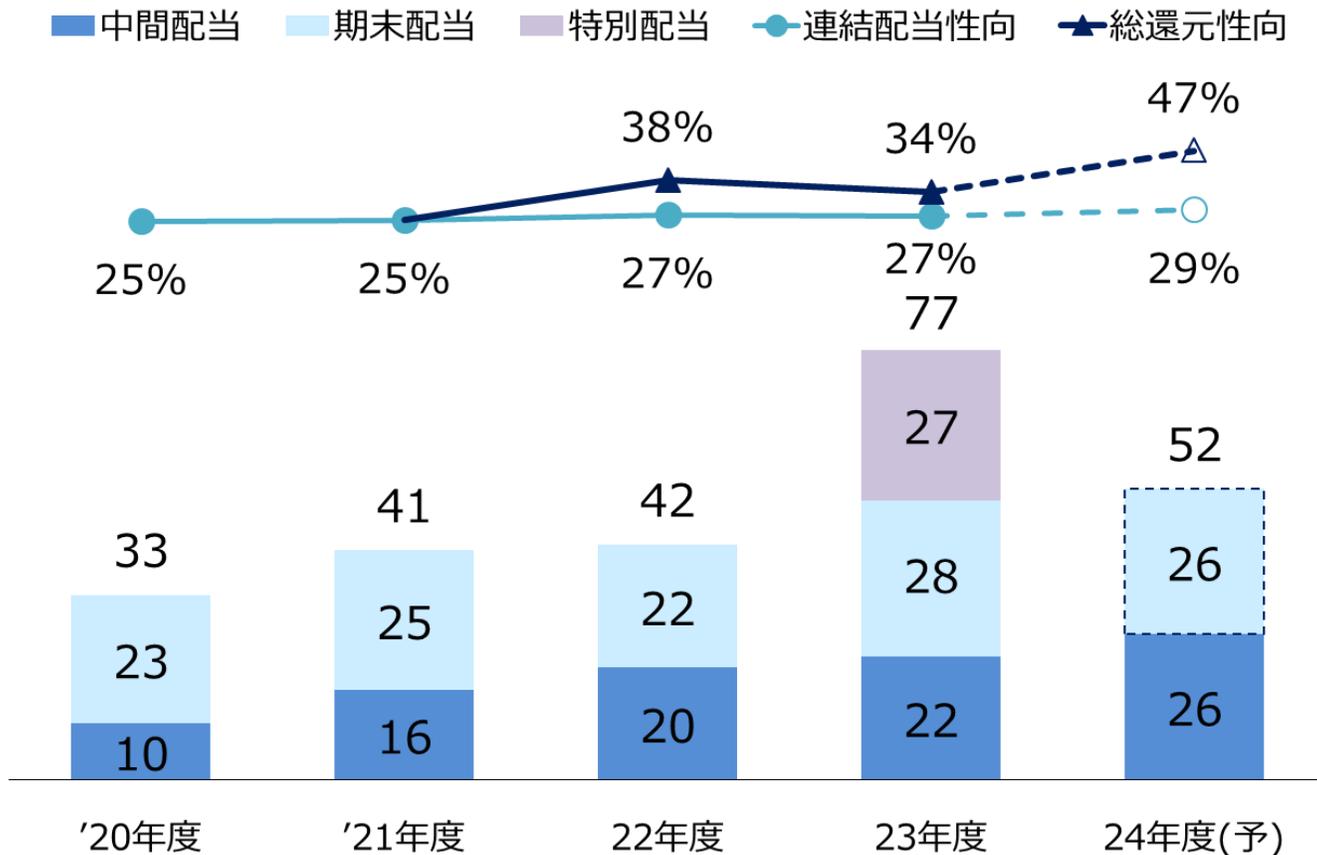
政策保有株式は純資産に対し20%以下を基準として、順次縮減を推進
 9月末時点で、みなし保有株式含め16.8%まで減少



2-9 株主還元方針

配当性向基準30%、機動的な自己株取得により株主還元を充実

<1株当たり配当金・配当性向・総還元性向推移>



<配当>

- ・配当性向30%を基準とし、
安定的、継続的な配当を実施

<自己株取得>

- ・目的：株主還元および資本効率の向上、
機動的な資本政策遂行

【実績】

2024年度：20億円
 2023年度：13億円
 2022年度：10億円

1. 第2四半期（中間期）実績
2. 2024年度通期予想
3. **トピックス**

3-1 トピックス：事業成長に向けた取組み

企業価値向上に向け、各事業の成長に向けた施策を推進

成長に向けた投資推進

・新金型工場建設

金型製作能力の増強と
超ハイテン工法開発力強化



2024年11月～稼働開始する新金型工場

・バルブ新工場建設

長期的市場拡大を見据え
電動車向けバルブを生産
2025年3月稼働予定



バルブ新工場 完成予想図

・開発センター建設

共創空間をテーマに
開発と生産技術を
一体化



開発センター外観イメージ

新プレス工場本格稼働、スマートファクトリー化推進

- ・AGV、自動機導入等、
効率的な工場を構築
- ・自社開発システムで、
設備・ラインの状態を
見える化、管理・改善を
サポート



AGV搬送



デジタルアンドン

集中稼働モニター

オープンイノベーションの推進

- ・オープンイノベーション
推進室を設立
- ・スタートアップなど、
他社との協創により
成長、価値創造を加速



3-2 トピックス：サステナビリティ

企業価値向上に向け、サステナビリティの取り組みと、情報開示の充実を推進

健康経営優良法人2024（大規模法人部門） 3年連続認定

健康で安全に働ける職場づくりを推進
疾病の発生・重症化予防、復職・
治療と仕事の両立支援の取り組みを
評価



えるぼし・プラチナくるみん同時認定

両立支援、職場風土づくりなど
女性が出産・育児休業
取得後もキャリアを継続して
働きやすい職場づくりを推進



防災マット「MATOMAT」大垣市全小学校に導入

生産過程のウレタン端材を
利用して開発した防災マット
「MATOMAT」の市内全19
小学校への納品（計
8,218枚）を完了



GPIF採用の国内株ESG指数 6つのうち5つで採用

- FTSE Blossom Japan Index
- FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数
- S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数
- Morningstar 日本株式ジェンダーダイバーシティ・ティルト指数



FTSE Blossom
Japan Index



思いをこめて、あしたをつくる

Passion in Creating Tomorrow